<＜シリーズ　大石ふるさと探訪⑤＞＞

霊 山 神 社 探 訪

霊山神社は大石地区の中心部、大石三方部（下方部、北方部、南方部）の結節点に建てられた地区を代表する神社です。
創建は明治 14 年(1881)で、御祭神は南北朝期「建武の新政」で南朝として陸奥の国を鎮定し、霊山に国府を構えた北畠御一門の四柱をお祀りしています。明治 18 年(1885)には「別格官幣社」という格式の高い特別な神社に指定され、今日に至るまで皇室をはじめ全国民の厚い崇敬を集めています。

＜祭　神＞
・北畠　親房公（後醍醐天皇の側近）
・北畠　顕家公（親房公の長男、陸奥国司）
・北畠　顕信公（顕家公の弟）
・北畠　守親公（顕信公の子）

また、京都嵐山に由来する紅葉の名所としても有名で、秋には参詣客の目を楽しませています。

至　笹ノ峠

至　霊山地区交流館

至　霊山閣・湧水の里

霊 山 神 社　探 訪

霊山神社ひとくち情報

創建のきっかけ

室町時代から３百年続いた武家の世から、明治維新を経て天皇を中心とした新しい近代国家となりました。この考え方の基となったのは、南北朝期に後醍醐天皇が行った「建武の中興」。天皇に従い大きな功績のあった方を称え神様としてお祀りする運動が明治期全国的に起きました。
明治 9 年(1876)の明治天皇の東北行幸で、天皇が半田銀山をご視察された時に霊山の歴史をお聞きになられ、北畠御一門の御霊をお慰めされた事が、霊山神社創建の大きなきっかけなりました。明治 11 年(1878)伊達郡 29 ヶ村 1165 名の神社創建願いが政府に提出され、同年、霊山神社建設の認可が下りました。

建設場所をめぐる攻防

建設予定地については、当初、石田村が推す山上の霊山城跡地と、大石村が推す地元里山の古屋館の二候補があり、双方譲らない状況が続きました。最終的に、伊達郡長の裁定に委ねられ、山道けわしく造営費用の増大や野火の危険が懸念される石田村案を棄却し、山麓の大石案を採用する事で決着しました。
霊山神社は明治 12 年(1879) 6 月に起工し、同年 11 月に竣工しました。

霊山山上の霊山城跡

別格官幣社とは

別格官幣社とは皇室と日本のために特別な功労があった歴史上の人をお祀りしてある神社で、明治政府により全国で 28 社指定されました（靖国神社、日光東照宮など）。東北地方では山形県の上杉神社とこの霊山神社の 2 社のみであり、格式の高さでは霊山神社は東北屈指の神社といえます。

御紋の笹竜胆（ささりんどう）

霊山神社の御神紋は「笹竜胆」が用いられています。笹竜胆は源氏の紋で、北畠家固有の家紋は「❖(四菱)」ですが、北畠家は村上源氏の庶流であり、系統を明らかにするために笹竜胆を御祭神として用いています。また、明治 18 年に別格官幣社になってからは、「16 弁菊花紋」の使用が皇室から認められました。

社殿屋根を飾る笹竜胆と菊花紋

西郷頼母と霊山神社

会津藩の筆頭家老であった西郷頼母は幕末の戊辰戦争にて新政府軍と福島を戦場に戦ったが敗北し、降伏の藩内調整も不調に終わり会津藩を出奔してしまいました。明治維新後は保科近悳(ちかのり)という名で日光東照宮の神職を歴任するなどしましたが、明治 22 年（1889）から 10 年間、霊山神社の宮司として奉職し、大石の地に住んでいました。明治の柔道家で姿三四郎のモデルとなった西郷四郎は頼母の養子であり、頼母から柔術を教わったといわれています。

西郷頼母

霊山神社のお宝

錦の御旗

霊山神社には戊辰戦争の時に新政府軍（官軍）が掲げたといわれる“錦の御旗”が保管されています。霊山神社創建に関わった岩倉具視卿により明治 14 年(1881)に寄贈されたものです。歴史上貴重な“錦の御旗”が福島県にあるのはここ霊山神社が唯一です。

錦の御旗

青磁花盆・皿

かつて霊山の原始信仰の対象として崇められた「二ツ岩」周辺から、大正 4 年(1915)青磁の花盆と皿が発見されました。13～14 世紀の元(現中国)の竜泉窯で焼かれたものとされています。霊山城主北畠顕家が京都から持ち込んだものではないかと言われています。青磁花盆は県の重要文化財となっています。

青磁花盆

霊山神社の祭事と伝統芸能

主な祭事

◎春季例大祭（４月 29 日）
・神社創建を祝うお祭り。670 年以上の伝統をもつ濫觴舞楽や北又の獅子舞などを奉納

◎夏越の大祓（６月 30 日）
・境内に作られた茅の輪をくぐり、無病息災を祈願

◎雅楽と舞の夕べ（９月）
・中秋の名月の頃、雅楽殿にて雅楽の演奏と舞を披露

◎秋季例大祭（10 月第２月曜日）
・五穀豊穣の感謝のお祭り、北又の獅子舞や霊山太鼓などを奉納

◎大注連縄飾り（12 月）
・総代たちで作られた大注連縄を飾り付け新年を準備

濫觴舞楽（らんじょうぶがく）

建武 4 年（1337）北畠顕家公が国司として霊山に入城した時、地元民が歓迎と武運長久の願いをこめ、霊山山頂の山王権現に奉納したというのが起源。霊山神社創建の際、当剣舞は大石の青年達により復興し白襷白鉢巻の武者姿で勇壮な舞を例大祭で奉納するようになりました。

勇壮な濫觴舞楽

<シリーズ　大石ふるさと探訪⑥>

霊 山 寺 探 訪

大石を代表する名刹天台宗霊山寺は、貞観元年（859）慈覚大師円仁により霊山山上に開山されて以来、さまざまな歴史の渦の中に翻弄されてきました。

霊山寺変遷の歴史は大きく３つに分類されます。

① 初代霊山寺（平安～南北朝期）：
　円仁による霊山寺の開山。往時は三千六百坊の隆盛を極めるも、南北朝期、北朝の攻撃を受け全伽藍を焼失。

② 二代目霊山寺（室町～江戸期）：
　伊達氏宗により大石宮脇に再興～野火による焼失。

③ 三代目霊山寺（江戸期～）
　当時阿弥陀堂があった大石倉波に再建、現在に至る。

現霊山寺の本堂は明治 43 年に完成。建物は八間半四方、柱やケタに村中で集められたケヤキが使われており、虹梁・欄間・木鼻など堂内各所に豪壮な浮彫彫刻が施されています。本尊は阿弥陀三尊、聖観音や天井絵などの多くの寺宝があります。

本堂内陣

① 本堂　：阿弥陀三尊を本尊とし、護摩堂には聖観音、千手観音、不動三尊などが安置。
② 山門　：参道から石段を登った本堂への入り口
③ 山王堂：天台宗の鎮守神である山王権現を祀る。堂内には神使である猿面の額が奉納。
④ 鐘楼　：戦前にあった鐘は戦時武器調達で撤去現存の鐘は昭和 49 年に建立。
⑤ 地蔵堂：里人からの信仰が厚い地蔵菩薩を安置。
⑥ 千体佛堂兼経蔵
　：霊山の土で作った多数の阿弥陀像と経典、及び昔の棟札を保管。
⑦ 庫裡　：住職のお住まい。
⑧ 南無釋牟尼仏：平和と交通安全を祈願した立像。
⑨ 顕彰碑　：明治期の住職霊精僧正の功績を称え天台宗本山の比叡山より顕彰。
⑩ 十三層塔：四面に仏様が彫られた報恩の塔。
⑪ 摩尼車　：お経が書かれた円筒形の宝珠。回転させる事で経を唱えるのと同じ功徳を得る。
⑫ 忘巳の碑：伝教大師の聖句の書
　「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」
⑬ 百庚申塚：民間信仰の庚申講を行った記念に建立した庚申塚を当寺の境内に収集。
⑭ 古碑群　：近隣の古碑七塔を移設。元徳の供養碑は南北朝時代のもので、松平定信の「集古十種」にも記載。

霊 山 寺　探 訪

霊山寺の歴史

山の霊山寺の栄華

859 年、慈覚大師円仁により霊山の山上に開山された霊山寺は、その後天台宗の東北地方の一大拠点として隆盛を極め、“北の比叡山”と呼ばれていました。江戸時代の書、「霊山寺縁起」には、山上に百二三十の堂塔伽藍、麓には 3600 坊の衆徒がいたと記されています。ここまで霊山寺が発展できた背景には以下の地形的利点があったといえます。

①修行に適した急峻な地形ながら、山頂の尾根部の地形は平坦であり多くの伽藍建立に適していた。
②固い地盤（霊山層）のおかげで、山上での生活には欠かせない豊富な湧き水が存在していた。

南北朝の争乱と悲劇

南北朝時代、南朝方である陸奥国の国司北畠顕家は、北朝の勢力に対抗するため 1337 年陸奥国府を多賀城から霊山に移し、霊山城として南朝の軍事拠点としました。顕家がこの地に遷ったのは以下の理由と考えられます。

①高い山容は要塞そのもので守りやすく攻めにくい所だった。
②霊山寺の建物（根本中堂など）をそっくりリフォームする事で、短期間で霊山城を建設する事ができた。
③武力として霊山寺の僧兵、密偵として山伏が期待できた。

しかし、顕家は翌年大阪にて 21 歳の若さで戦死。数年後霊山寺は霊山城とともに北朝の兵火により、山上の伽藍は全て灰燼に帰してしまいました。

里の霊山寺の再建と受難

霊山寺は 1401 年伊達氏宗により、現在の大石宮脇の地に再興され栄華は復活します（現在の宮脇遺跡）。
ただ、伊達氏の後、大石を治める事となった蒲生氏や上杉氏の圧力により霊山寺は受難を迎えます。特に上杉氏は霊山寺の檀家を強制的に一向宗に改宗させようとしましたが、徳川家の高僧天海の力で事態は収拾。その後、徳川の統制が強まった霊山寺は上野寛永寺の直末寺となりました。

霊山寺のお宝（歴史遺産）

阿弥陀三尊（本堂内本尊）
＜室町時代の作＞

聖(しょう)観音立像
＜鎌倉時代の作＞

不動明王像

千手観音像

十六羅漢

龍の天井絵
（どの方向からもみても睨む眼）

花・動物の天井絵

天女の天井絵

仙台藩最後のお抱え絵師
梅舘の襖絵

2008 年、かつて霊山寺にあったとされる阿弥陀如来の頭部が千葉県の善雄寺にて発見されました。慈覚大師円仁の作と言われています。
阿弥陀如来坐像 （模写、現物は善雄寺蔵）

明治初年に、霊精僧正が霊山山中の土を掘り起こして 15cm 程の仏像を 200 体作ったものが安置されています。
千体佛（千体佛堂内）

1858 年の建築、堂内には千手観音、聖観音、十一面観音立像が安置されています。信達三十三観音の二十九番霊所となっています。
観音堂（大石西舘）

霊山寺の歳時記

◎元旦会護摩供（１月１日）
・修正会(しゅようえ)、国家安穏、霊山寺のみで祈願

◎山王本地仏護摩供（１月１５日、８月１４日）
・護摩木に願い事を書き供養

◎涅槃会（４月第１日曜日）
・お釈迦様入滅日、通称だんごまき

◎彼岸会（春秋彼岸）
・霊山寺のみで祈願

◎盂蘭盆供養（８月お盆）
・檀家の方々が参集し、供養後塔婆をお墓に納める

◎大師講（１２月第１日曜日）
・伝教大師、慈覚大師を祝う。前日、檀家の方々の手伝いで紅白餅を作り御馳走になる。当日は紅白餅を本殿に飾り供養する。

山王本地仏護摩供

<シリーズ　大石ふるさと探訪⑦>

大 善 寺 探 訪

大善寺は院主にある大石では霊山寺と並ぶ名刹。綺麗な水が出たことから「小和清水」と呼ばれる地域に建てられています。浄土真宗龍谷山本願寺（現在の西本願寺）の末寺であり、阿弥陀如来を本尊としています。
慶長 15 年（1610 年）、信濃の国（現在の長野県）篠ノ井の康楽寺の僧侶が東日本を伝道し、ここ大石にお寺を構えた事から始まったとされています。
今でこそ浄土真宗は一般民衆に幅広く受け入れられる一大宗派ですが、当時は新興宗教として異端視されていました。天和２年（1682 年）米沢城主上杉定勝の家臣、古川善兵衛が浄土真宗に帰依し、信達２郡を強制的に改宗させた事で広まったとされています。

現在の本堂は地元で切り出した大木を用い明治期はじめに建設されました。この当時伐採した木材を運び出す事は容易な事ではなく、祓川の水を堰止めて切り出した木材を浮かべ、大雨の日に水と一緒に流す等の策がとられたと言われています。本堂は固い欅（ケヤキ）が多く使われ、自然災害にも強い構造となっています。また、堂内の柱や欄間に施された透かし彫りの彫刻は見事なもので、大善寺の壮麗さを引き立てています。

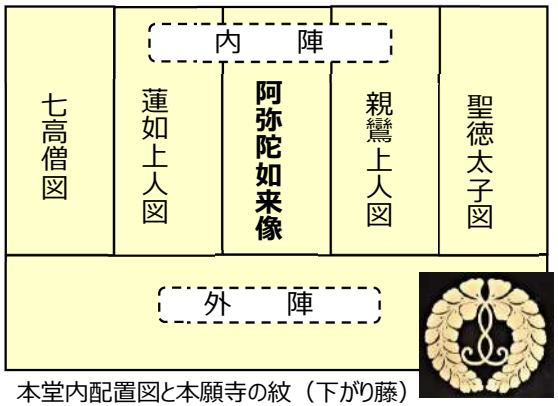
本堂内部

至　霊山地区交流館　←　31　→　至　霊山神社

① 本堂　　：現在の建物は地元の大木（ケヤキ）を使って明治期に建設。本堂内中央に阿弥陀如来立像が安置。
② 庫裡・客殿：住職のお住まい、檀家の控室／会合の場。
③ 山門　　：祓川を渡り、参道から石段を登った本堂への入り口。
④ 鐘楼　　：戦前にあった鐘は戦時武器調達で撤去。昭和 41 年再鋳造。
⑤ 太子堂　　：仏教の国内布教の祖、聖徳太子の像を祀る。前方に藤棚あり。
⑥ 経蔵　　：京の本願寺より運んできたと言われる一切経の書物が保管。
⑦ 忠魂碑　　：戦争で亡くなられた英霊を弔う記念碑。
⑧ 当山歴代墓：歴代の住職を弔う墓。
⑨ 伽羅の大樹：伽羅木は沈香として重宝。
⑩ 無量壽堂　：南無阿弥陀仏石碑下にある共同納骨堂。

大 善 寺 探 訪

大善寺のお宝（本堂）



本堂内配置図と本願寺の紋（下がり藤）

阿弥陀如来立像

浄土真宗においては阿弥陀如来一仏を本尊とします。
自らの修行によって悟りを得るのではなく、阿弥陀仏の本願に頼り、「南無阿弥陀仏」と念仏を唱える事で極楽浄土へ成仏する教義です（他力本願）。
このわかりやすい教えが一般民衆にも親しまれ、全国の浄土真宗の門徒拡大へつながったものと思われます。

親鸞上人図
浄土真宗の宗祖。

蓮如上人図
浄土真宗８代宗主、本願寺中興の祖。

聖徳太子図
日本にはじめて仏教を広めた功労者。

七高僧図
親鸞が選定した７人の高僧。

透かし彫りが見事な彫刻群

大善寺の歴史

聖徳太子伝説

境内の聖徳太子を祀る太子堂は元々は大石字太子堂にあったとされており、南北朝期、霊山寺が北朝軍により攻撃された時に破壊されたと言われています。その後今から二百数十年前、ある農家が屋敷地を開墾していた時に小さな木像が出てきました。当日腰にぶらさげて仕事をしていたところ、夕方その農夫が突然亡くなってしまいました。「こんな恐ろしい像は置いておけない」と、すぐ大善寺へ持っていき、その後、この木像は慈覚大師作の太子様の霊像ではないかという事が判明しました。
当霊像を鎮めるため境内に太子堂を再建しました。堂内には高さ 50 ㎝の聖徳太子像が安置されていますが、その腹中に約 5 ㎝の霊像がおさめられています。

聖徳太子像

塩崎覚夢住職と大善寺雅楽隊

大善寺 12 代目の塩崎覚夢住職は、一時期ハワイで布教活動を行うなどの進歩的な宗教家でしたが、明治 30 年には門信徒を中心に雅楽隊を編成、以来今日まで近隣の寺社の祭礼では優美な雅楽演奏を披露しています。

塩崎覚夢住職

大善寺の歳時記

◎親鸞聖人お逮夜法要（１月１５日）
・親鸞上人の命日（新暦換算）の前日のお逮夜に義信会の皆様が集まり上人の遺徳をしのぶ。

◎聖徳太子会（９月８日）
・太子堂内におられる太子様を供養し、諸願成就を祈願。

◎報恩講（１１月２８日前後）
・親鸞聖人の命日（旧暦）の前後に行われる浄土真宗の門徒が一年間で最も大切にする仏事。

<シリーズ　大石ふるさと探訪⑧>

日 枝 神 社 探 訪

日枝神社は永禄５年（1562 年）後の当主伊達輝宗の家臣牧野忠宗により、霊山の山上にあった山王社を遷し、ここ宮脇の地に建てられました。御祭神は山の地主神の大山咋神（おおやまくいのかみ）と大物主神（おおものぬしのかみ）です。当時山上の山王社を一の宮、当社を二ノ宮と呼んでいました。その後領主が変遷し一時荒廃の憂き目をみましたが、米沢藩主上杉定勝の家臣、古川善兵衛によって寛永７年（1640 年）再建、のちの享保９年（1724 年）更に改築が行われ現在に至っています。
境内には白河藩主松平定信公が建立した霊山碑や、樹齢４００年の以上の老杉などが高くそびえ、厳かな神域となっています。
日枝神社は、大石・泉原を氏子とした旧霊山村の村社でもあり、毎年７月２０日には日枝神社の例大祭（夏祭り）が開催され多くの参拝者を集めます。

日枝神社の背後には 2014 年国の史跡に指定された宮脇遺跡があります。かつて室町時代に伊達氏により再建された壮麗な霊山寺（里の霊山寺）が建っていたとされています。

① 拝殿：境内正面、祭祀・拝礼を行うための社殿、参拝者の着座場所。
② 本殿：拝殿奥、御神体を安置する社殿。精緻を極めた彫刻、鬼瓦、妻飾りなどは江戸時代の建築文化を伝える貴重な有形文化財。

③ 霊山碑：白川藩主松平定信が霊山城主北畠顕家の功績を称えた碑（後述）
④ 斎館　：祭事終了後の直会（なおらい）の施設
⑤ 舞台　：夏まつりの時に使用する特設舞台
⑥ 手水舎：手水で参拝者の身を清める
⑦ 大鳥居：神域の入口、現在のものは平成４年建立
⑧ 頌徳碑：昭和 13 年建立。入会林野の政府からの取り戻しを村民一丸となって実現した功績を称える。
⑨ 大神宮碑：伊勢講記念、文久元年（1861）建立。
⑩ 石灯籠：安永４年（1775）建立。
⑪ 大神宮、山神碑：計６個の碑をまとめて建立

日 枝 神 社 探 訪

日枝神社と山王信仰

日枝神社はもともと比叡山麓の日吉大社より勧請されたもので、地元では山王さまとして親しまれています。かつて神道と仏教が融合していた時代（神仏混淆）、日吉大社は比叡山に創建された天台宗総本山延暦寺の護り神である山王権現として祀られるようになりました。江戸時代には国の鎮護の神として日吉大社を分祀した神社（日枝神社・日吉神社・山王神社）が全国各地に広がりましたが（約3800 社）、同時に天台宗寺院も基本ペアの関係で広がっていきました。大石では天台宗霊山寺と日枝神社がその関係にあります。

日吉大社（滋賀県）

拝殿正面の左右の柱の上には、ユーモラスな木彫りの“猿”が彫られています。山王系の神社では猿は神猿（まさる）としてなじみが深く、魔除けの象徴（“魔が去る”、“勝る”）として大切に扱われています。拝殿内にもおびただしい数の猿が描かれた額が奉納されています。享保９年（1724）の作で以来約 300 年の間、決して柱から落ちる事なく大石を見守っています（“落ちない猿がいる神社”として日枝神社は今後受験の神様として注目されるかもしれません）。

猿の群れの額

落ちない猿（左）

落ちない猿（右）

日枝神社のお宝（歴史遺産）

霊山碑

日枝神社の境内右に霊山碑があります。文化 14 年（1817）に白河藩主松平定信が建立しました。南朝方の陸奥国司／霊山城主である北畠顕家の天皇への忠誠を顕彰したものです。江戸時代中後期、これまで逆賊扱いであった南朝を再評価する機運が高まり、この碑はその時代を顕す貴重な文化財となっています。

霊山碑の石板

霊山は伊達郡大石村に在り、天地始めて陶し山川形を結で此の奇秀を生ず、命して以って霊山となす。而るに此に棄損して遐陬（かすう）顧みざるもの何ぞ、それ先に与ひて後に奪ふものならざらんや。
建武の頃北畠顕家、義兵を擁して是の墟を保ち、屡々（しばしば）挫折し復ふ振ふ。然る後山因って顕る（あらはる）、顕家の忠誠盡國其の隠伏を顕すに足る。而も蒼山生をして心を南朝に帰向せしむる能はざるもの、何ぞ其れ物を得て人を失うと云ふべし。而して今其の時を去る四百年人忠孝を重じ、風俗義を尚び、農人商夫猶ほ山を指して故事を説く。顕家生ては奥羽を以て根據となし身は泉州に死すといひども、魂魄反て常に此の山に在るが如し。村民碑を樹て、酒食を以て山霊と人神を祀り盼蠁（けいきょう）来り食し其れ斯民を祚（そ）するや必せり。然り即ち相得て顕著なる者、将に以って愈々（ゆゆ）久遠を極めんとする也。

文化十四年八月

霊山碑の記載文面（漢文書き下し文）

宮脇遺跡（史跡）

山上の霊山寺は 1347 年前後、北朝の手により焼失しましたが、応永 11 年（1401）、この地を治める伊達氏（10 代当主伊達氏宗）により山の麓の里大石宮脇の地に再興されました。
2006 年の始まった遺跡調査により、当時の建物の状況が明らかになってきました。総瓦葺きの壮麗な２棟の伽藍、軒下瓦には菊花紋の文様、伽藍の前には池と景石を配置した庭園が確認されました。伊達氏は京都の室町幕府との関連も深く、ここから出土された遺物をみると、三代将軍足利義満が建立した金閣寺（鹿苑寺）に代表される北山文化の影響を強く受けている事が判ります。
この発掘の成果が評価され 2014 年宮脇遺跡として国の史跡の指定を受けました。

現在の宮脇遺跡

北山文化の代表　金閣寺

日吉神社の歳時記

◎日枝神社例大祭（７月２０日）

大石・泉原の氏子が拝殿に参集し五穀豊穣の祈祷。夜には獅子舞や霊山太鼓の奉納と、特設舞台上で地元の方々による歌と芸能が披露されます。

奉納獅子舞

霊山太鼓と盆踊り

伊達の奥座敷

霊山

大石

ふるさと探訪

発行責任者：大石ふるさとづくり協議会
tel ： 024-587-1311